

「親の学び」次世代編実践協力校 実践事例紹介

～山鹿市立鹿本中学校での実践～



【山鹿市教育委員会】

【講座のテーマ】

子どもの立場、親・保護者の立場（次世代編）



アイスブレイク「一筆書き」

【講座の日程等】

日にち：令和4年11月7日（月）
場 所：山鹿市立鹿本中学校体育館
日 程：6校時（15：00～15：50）
対 象：鹿本中学校 第3学年1・2組 71名
進行役：県社会教育課 社会教育主事 工木 圭吾郎

【講座の説明】

将来、親・保護者になったとき、様々な場面でどのような声かけをするのか。また、自分はどんな親・保護者でありたいかを考える活動を通して、今の自分と親・保護者との関係性を見つめ直し、より良い関係を築こうとする機会となる。

【プログラムの実際】

I アイスブレイク

「なぞなぞ」「一筆書き」の問いを考える活動を通して、人には固定観念があり、「広い視野・柔軟な考えを持つ」「色々なものの見方をする」「色々な意見を受け入れる」ことの大切さを確認した。

II 中心活動（自分の考えを持ち、皆で意見の交流）

課題① 友だちの家にいつものメンバー5人で集まり勉強してくる。帰りがちょっと遅くなる。夕食も済ませてくる。

課題② 予定より帰りが遅くなった。気付けば、スマホには家からの着信・メールが・・・。

それぞれの場面ではあなたは？

◎子の立場から

なんて言う？ 課題①→「しっかり勉強してくる」

課題②→「思わず時間が経ってた」

なんて言ってほしい？

課題①→「気をつけて行っておいで」

課題②→「心配したよ」

◎親・保護者の立場から

なんて言う？

課題①→「なるべく早く帰ってくるのよ」

課題②→「遅れるんだったら連絡しなさい」

◎将来の自分

どうなりたい？

・「お父さん、お母さんみたいな親になりたい」と、自分の子どもから言われる親になりたい。

・かっこいい親になりたい。

III まとめ

ありの目（細部を見る）

とりの目（広い視野で見ると）

さかなの目（流れを見る）



意見の交流

【生徒の感想】

○自分の将来の姿を考えることができるいい機会になりました。

○だめなことはちゃんと伝えられる、そして子どもの気持ちに寄り添える親になりたいと思いました。

○親は、自分のために言ってくれているのだから、これからは真剣に聞こうと思いました。

○親とけんかしたときは、親の立場になって考えるようにしようと思いました。

○仕事が忙しくても、手伝ってくれるので親はすごいと思いました。感謝の気持ちを伝えていかないといけないと思いました。

【教師の感想】

○多感な中学生にとって、とても興味深い講座だった。このようなプログラムを授業でやってみたい。

○親・保護者がどんな思いで、自分を育てているかしっかりと考える機会になると思う。